

発達段階に応じた情報モラル教育の教材開発に関する調査研究

三重県教育委員会事務局 研修推進課 テーマ研修班 研修員 生駒 富子

I 研究の目的

様々な情報に関わる課題に対して主体的に対応する力を育成するため、発達段階に応じた情報モラル教育の教材開発を行い、研究成果を県内の実践に広げていく。

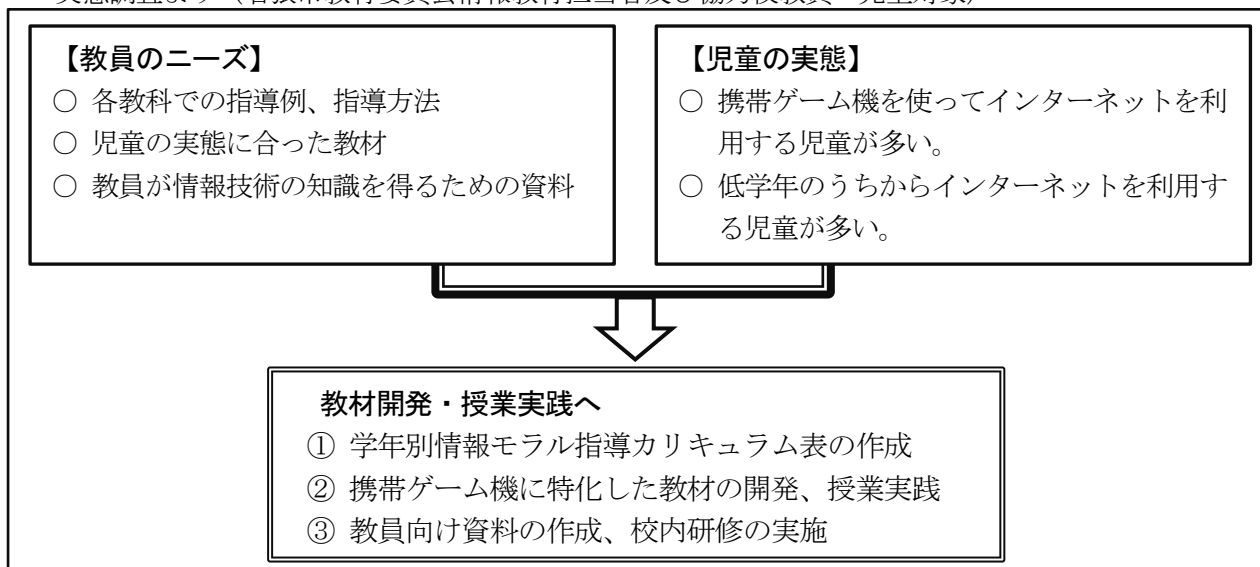
II 研究の内容

1 情報モラル教育の必要性

児童生徒を取り巻く情報に関わる環境は日々変化している。情報モラル教育では、情報技術に関する内容と併せて、道徳で扱われる日常生活におけるモラル（日常モラル）を指導し、それらを基に判断する力を育成していかなければならない。そのためには、発達段階に応じた指導を低学年のうちから積み上げていかなければならない。

2 情報モラル教育の現状

実態調査より（名張市教育委員会情報教育担当者及び協力校教員・児童対象）



3 各教科における情報モラル教育

情報モラル教育を系統的に行うために作成された「情報モラル指導モデルカリキュラム表」を基に、学年別情報モラル指導カリキュラム表を作成した。情報モラル教育が可能な教科、単元、内容をより具体的に一覧表にまとめた。合わせて、光村図書出版の小学校国語教科書の「コラム」を使った指導カリキュラム表も作成した。これは、情報活用能力に直結する内容が多く、情報モラルについても発達段階に応じて学習をすることができるものである。

4 発達段階に応じた教材の開発

開発した「コミュニケーションカード」は、6枚1セットのカードを使って行う道徳教材である。児童がよく使うコミュニケーションツールを取り上げ、同じ内容でもコミュニケーションツールによって伝わり方が違うことを知り、一番気持ちが伝わるツール、方法を考えさせるための教材である。

5 開発教材を使った授業実践

協力校の第4学年の児童（106名、3クラス）を対象に授業実践を行った。開発した教材を使ってより効果的に指導するために、各教科、「コラム」、学級活動（情報技術の知識に関する内容）と合わせて系統的に授業を行った。

(様式4)

指導計画は以下のとおりである。

	単元名	学習内容
各教科指導	1. 国語科 「アップとルーズで伝える」 光村図書出版 小学校国語科 4年下	○ メディアを通じて受け取っている情報が、一定の価値判断・意図に基づいて取捨選択されたものであることに気づく。 ○ 「アップ」と「ルーズ」の使われ方やそのよさについて知る。
	2. 国語科「コラム」 「言葉で変わる写真の印象」 光村図書出版 小学校国語科 4年下	○ 写真に添える文章次第で受ける印象が大きく変わることに気づく。 ○ 自分の考えを示すときの絵や写真の使い方を考える。
児童の実態に応じた指導	3. 学級活動 情報技術の知識に関する授業 「うまく伝わったかな」 (指導の手引き ¹⁾ 教材)	○ 携帯ゲーム機でのコミュニケーショントラブルについて考え、これからどのようにコミュニケーションをとっていけばよいかを考える。 ○ コミュニケーションツールの特性を知る。 ○ 「コミュニケーションツールの欠点を補う3つのポイント」を知る。
	4. 道徳 日常モラルに関する授業 「伝える気持ちは同じでも…」 (開発教材)	○ 相手の立場に立って考え行動することの大切さに気づく。 ○ 伝える気持ちは同じでも、コミュニケーションツールによって伝わり方が違うことを知る。

情報技術の知識に関する授業と日常モラルに関する授業を連続して行ったことで、コミュニケーションツールの特性についての知識を全員が知ったうえで、自分ならどう活用するかを考えることができた。自分のこととして捉えることができたため、実生活に活かしやすく、児童自身も意識して生活することができるようになった。

6 教員向け資料の作成・協力校での校内研修会の実施

児童の所持率が高い携帯ゲーム機について知ることで、教員が児童からの相談を受けたりトラブルを回避できるようにアドバイスしたりすることができるのではないかと考えた。そこで、「携帯ゲーム機でできること」等をまとめた資料を作成し、校内研修会を行った。併せて、作成したカリキュラム表等を紹介し、各教科でも情報モラル教育を扱えることを伝えた。

III 成果と課題

1 成果

調査研究を進める中で、インターネット等の利用を禁止するのではなく、使い方を指導することが大切だということを学んだ。「どのような便利な使い方があるのか」「どのような危険があるのか」ということを児童と一緒に考え、想像させることで、主体的に対応する力を育成できることが分かった。

また、情報モラル教育は各教科指導の中で日常的に行うことが重要であることが分かった。国語科における教科指導と学級活動、開発教材を使った道徳を関連付け、一つの単元として考えた授業実践を行ったことで、系統立てた指導を行うことができた。

教員向けの資料作成では、児童の所持率が高い携帯ゲーム機でできることについてまとめた。校内研修を実施したことで、参加者に情報モラル教育のイメージを持たせることができた。

2 課題

情報モラル教育は、1年間を通して全ての教育活動の中で行われるべきものであるため、年度当初からの取組が必要となる。そのためにも、各教科と学級活動、道徳を関連付けた指導計画が必要である。

さらに、家庭への情報発信や家庭と連携した取組も必要である。様々な実践事例から各学校の実態に合った啓発方法を考えていくことが大切である。

1) 文部科学省委託事業

「情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き」